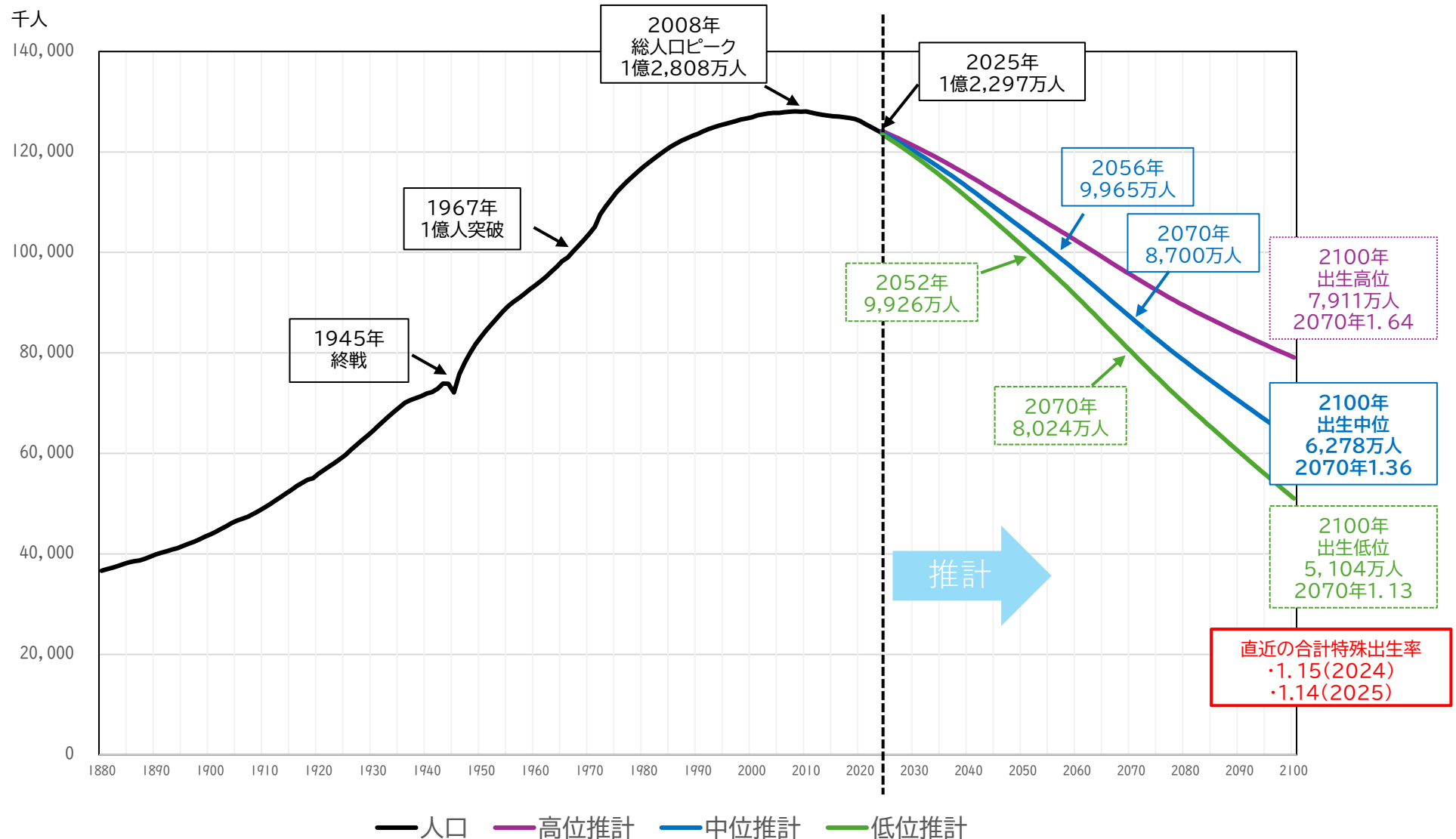


我が国の人口動態等の状況について (参考データ)

長期的な人口推移(1880年～2100年)

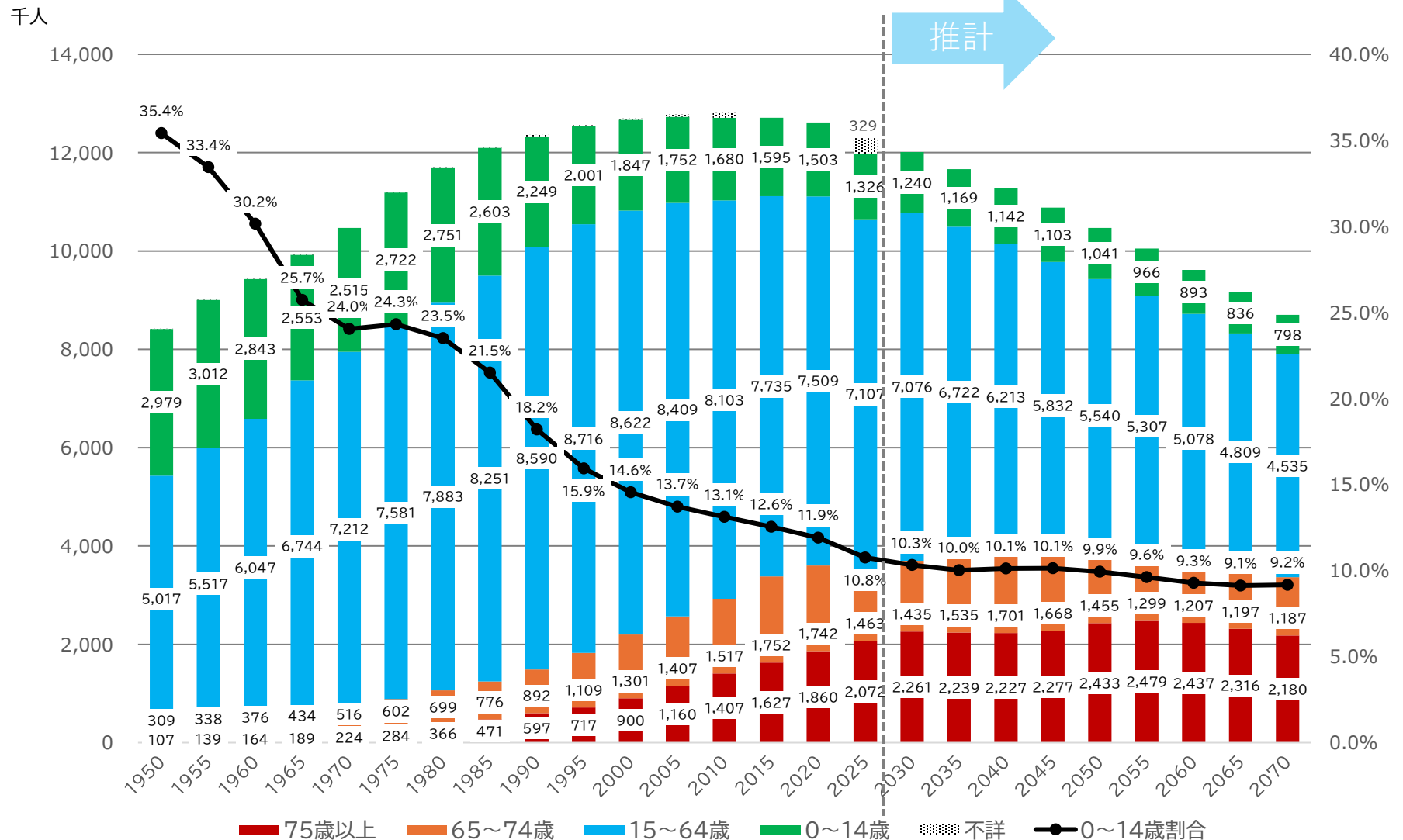
我が国の人口は、2025年で1億2,297万人となっており、2008年のピークを経て、減少局面に入っている。



出典:人口統計資料集(2023)改訂版(国立社会保障・人口問題研究所)、日本の将来推計人口(令和5年推計)(同)(死亡中位)、国勢調査(総務省)、人口動態統計(厚生労働省)

我が国の総人口及び人口構造の推移と見通し

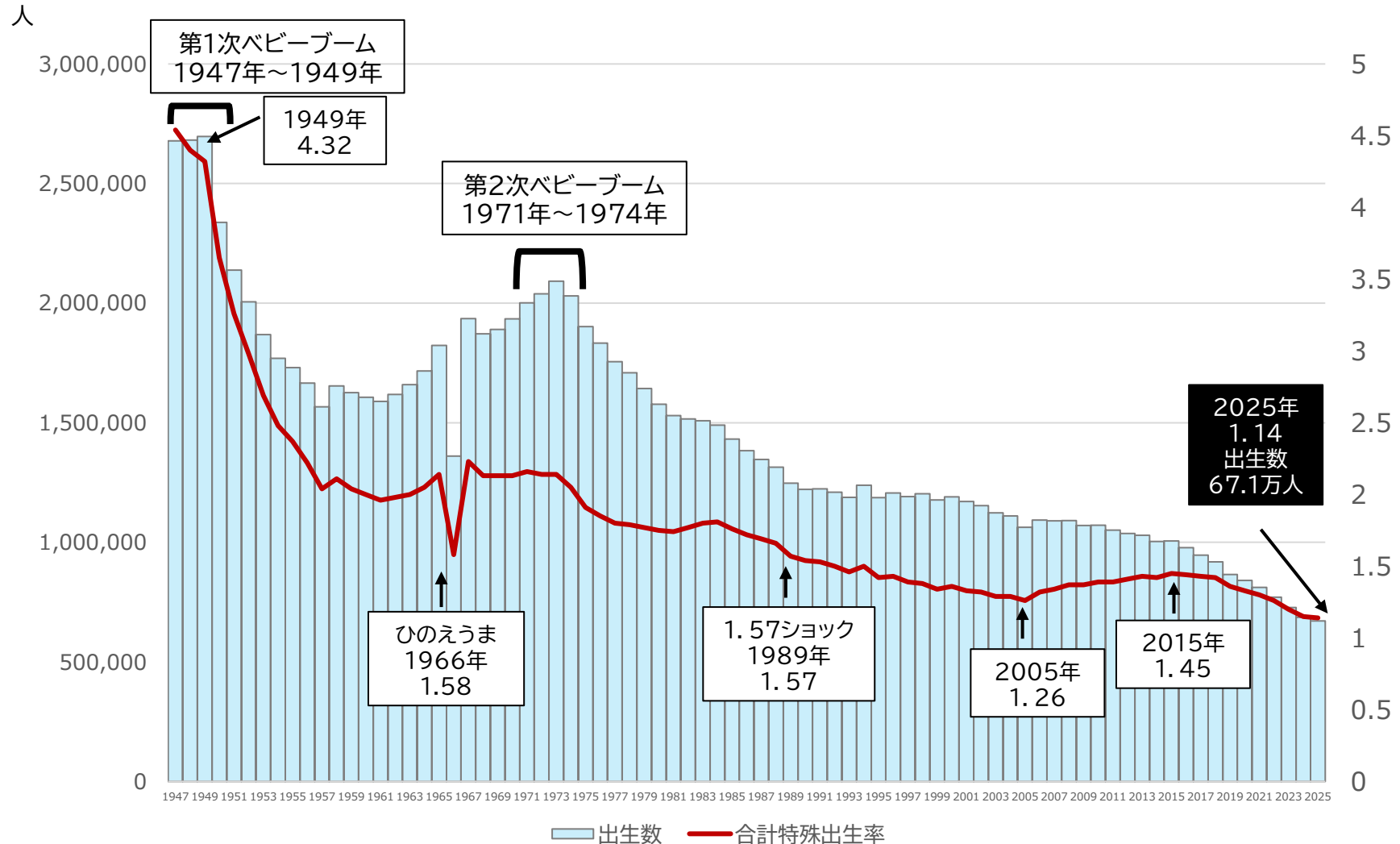
1950年と2070年はともに8,000万人強であるが、少子高齢化の進展により、人口構造は大きく異なっている



出典:1950年～2025年は国勢調査(総務省)、2030年以降は日本の将来推計人口(令和5年推計)(国立社会保障・人口問題研究所)出生中位・死亡中位

出生数・合計特殊出生率の推移

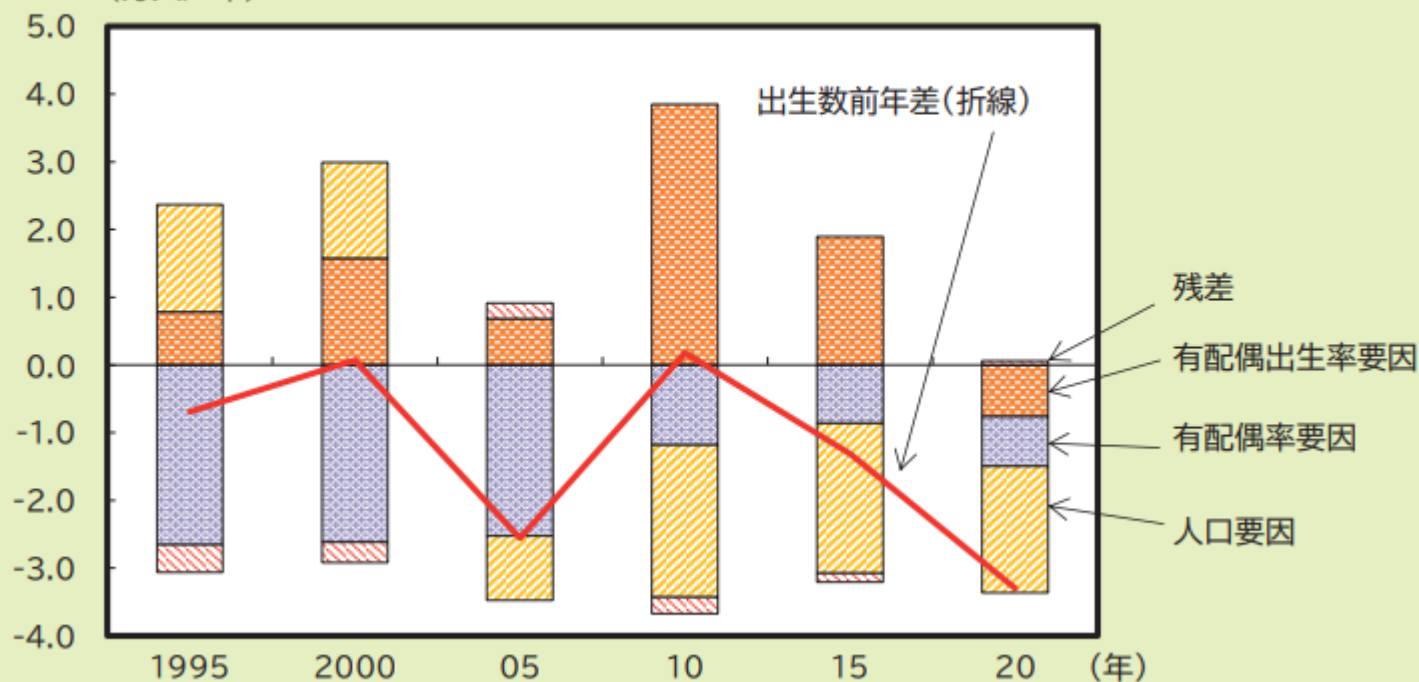
2025年の出生数は671,270人、合計特殊出生率は1.14といずれも過去最少(最低)。なお、出生数の対前年増減率は▲2.2%で、▲5%台で推移していた近年と比べて緩やか



出生数減少の要因分解

第2-2-4図 出生数の要因分解

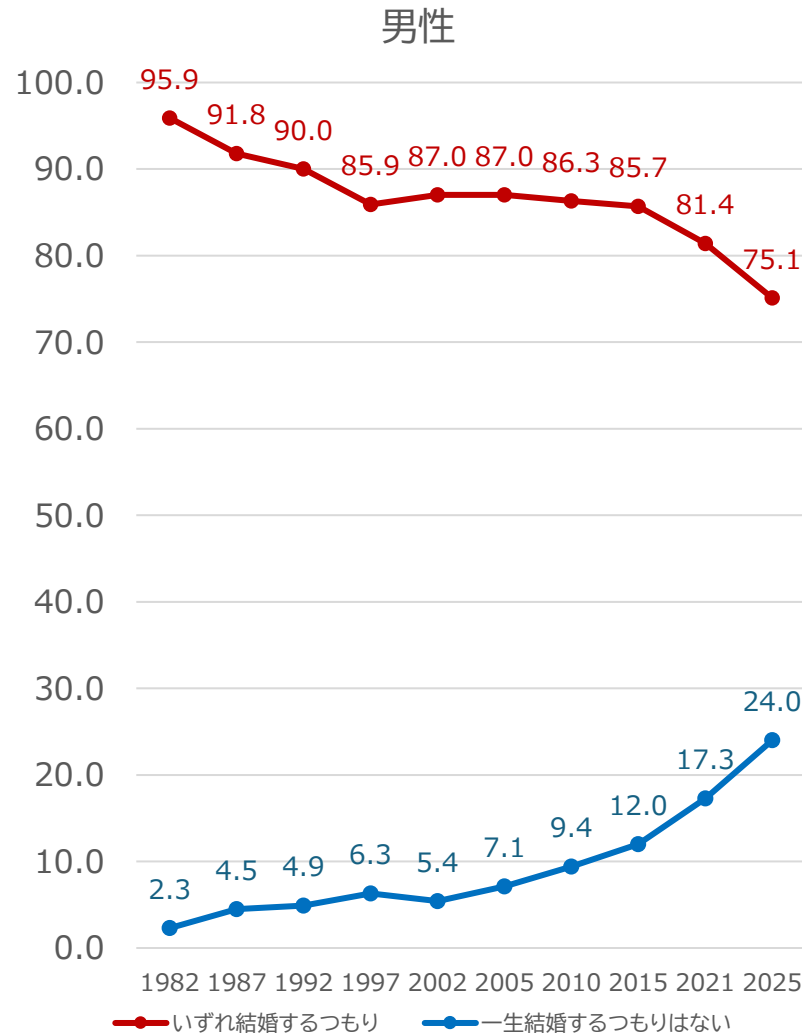
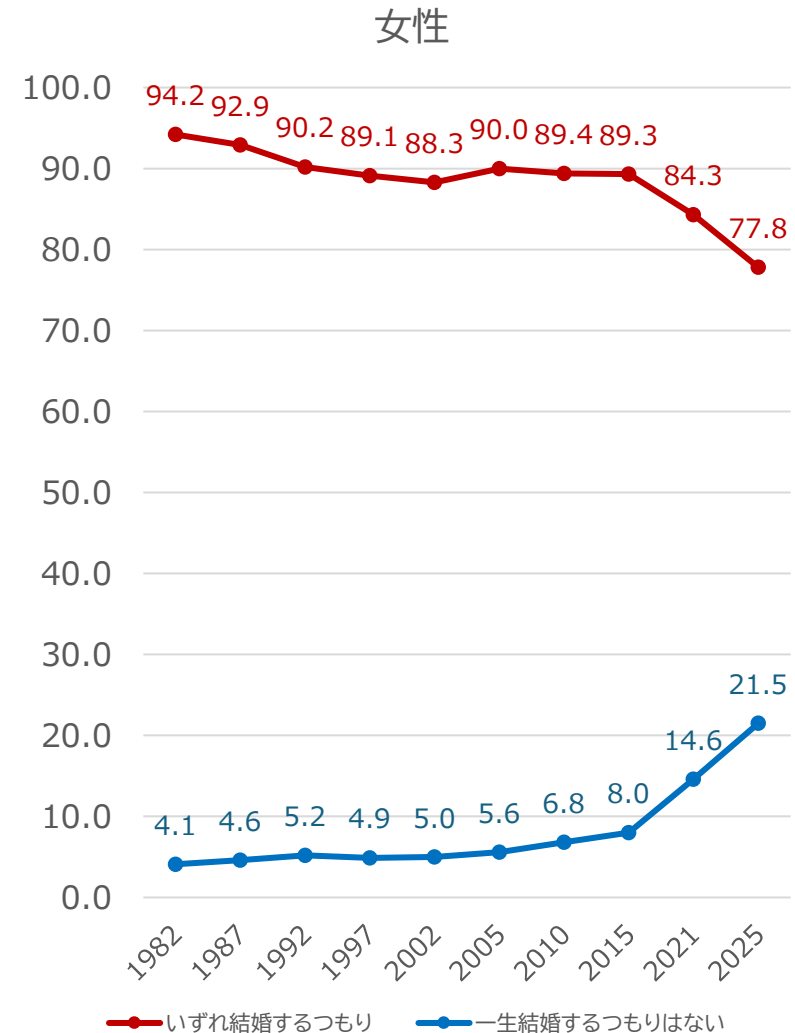
足下では、人口要因・有配偶率要因・有配偶出生率要因の三重の下押しにより少子化が進行
(万人/年)



- ①人口要因(出産する女性の人数自体の減少)
- ②有配偶率要因(結婚の減少)
- ③有配偶出生率要因(夫婦の出産の減少)

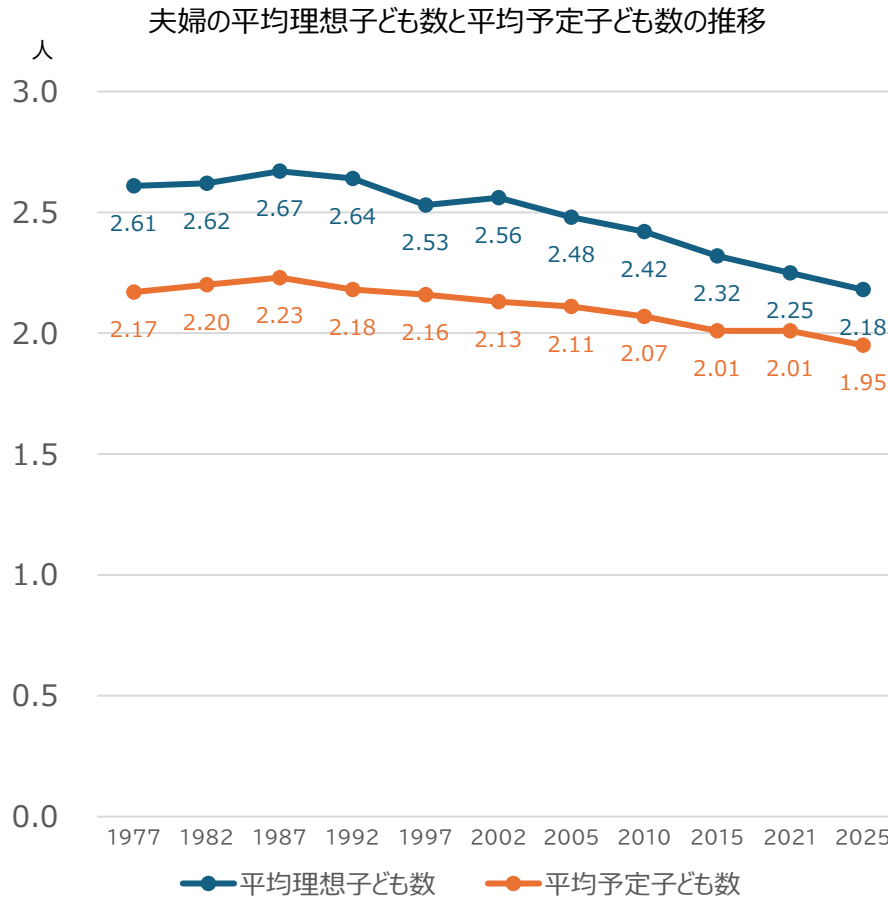
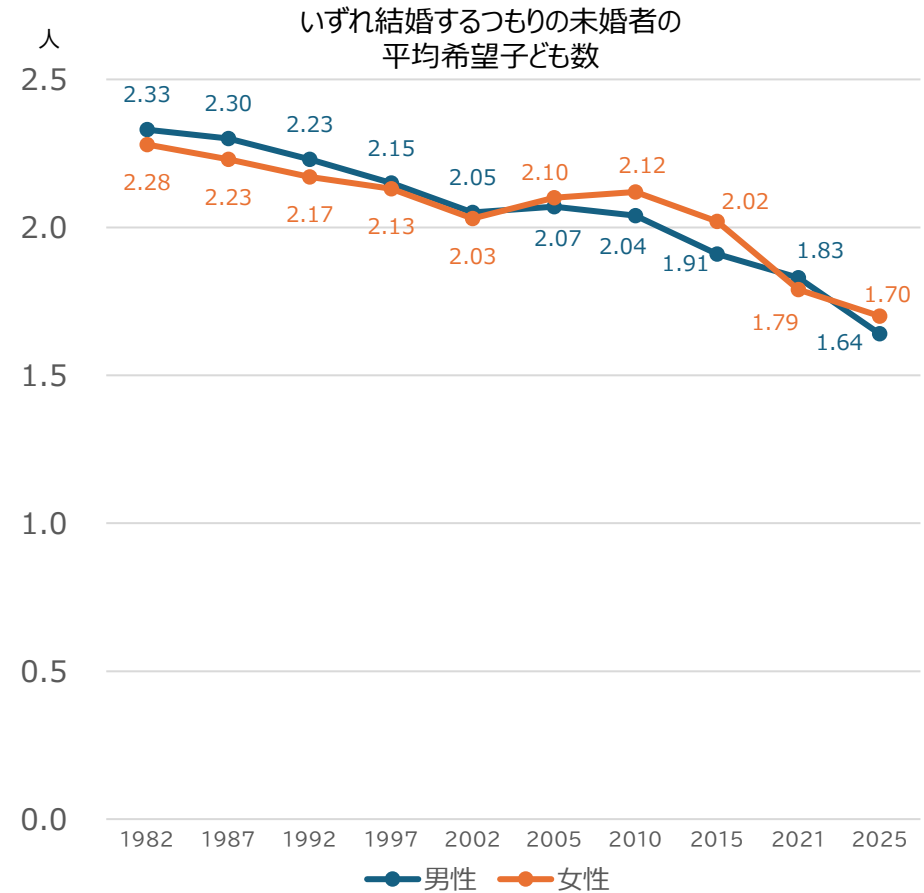
未婚者(18～34歳)のうち「いずれ結婚するつもり」と答えた者の割合 (第17回出生動向基本調査(独身者調査)(2025年))

男女ともに、1997年から2015年までは横ばいで高い水準を維持していたが、2021年には男女ともに低下し、2025年は男女ともに80%を下回った。



出産に対する意識の推移(第17回出生動向基本調査(2025年))

- 夫婦の理想的な子どもの数は、1987年の2.67人から低下しており、2025年において2.18人となっている。実際に持つつもりの子どもの数も1987年2.23人から低下しおり、2025年において1.95人となっている。
- 未婚者の平均希望子ども数も低下しており、2025年において男性1.64人・女性1.70人となっている。

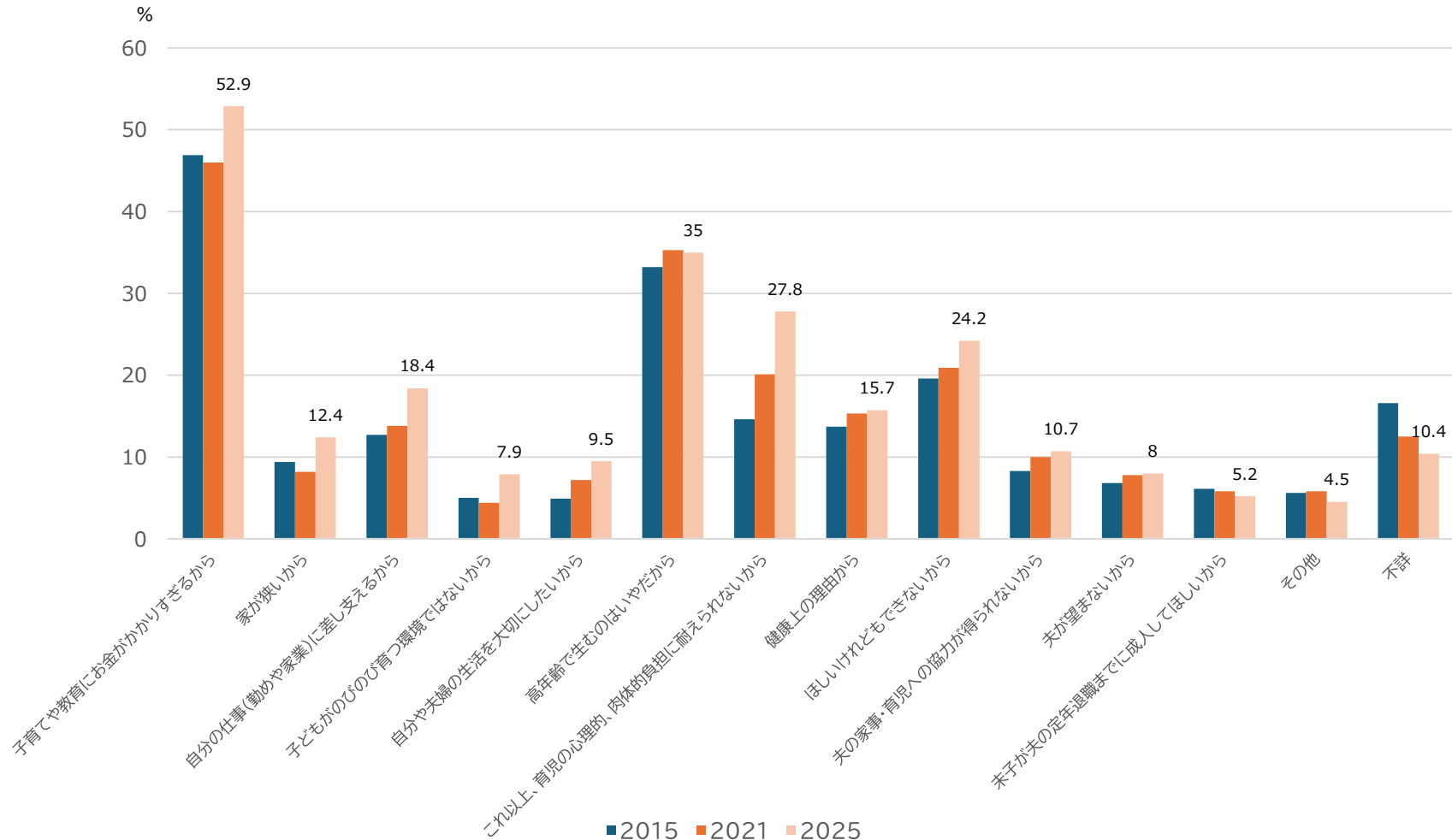


出典（左）：第17回出生動向基本調査（夫婦調査）（2025年）（国立社会保障・人口問題研究所）

出典（右）：第17回出生動向基本調査（独身者調査）（2025年）（国立社会保障・人口問題研究所）

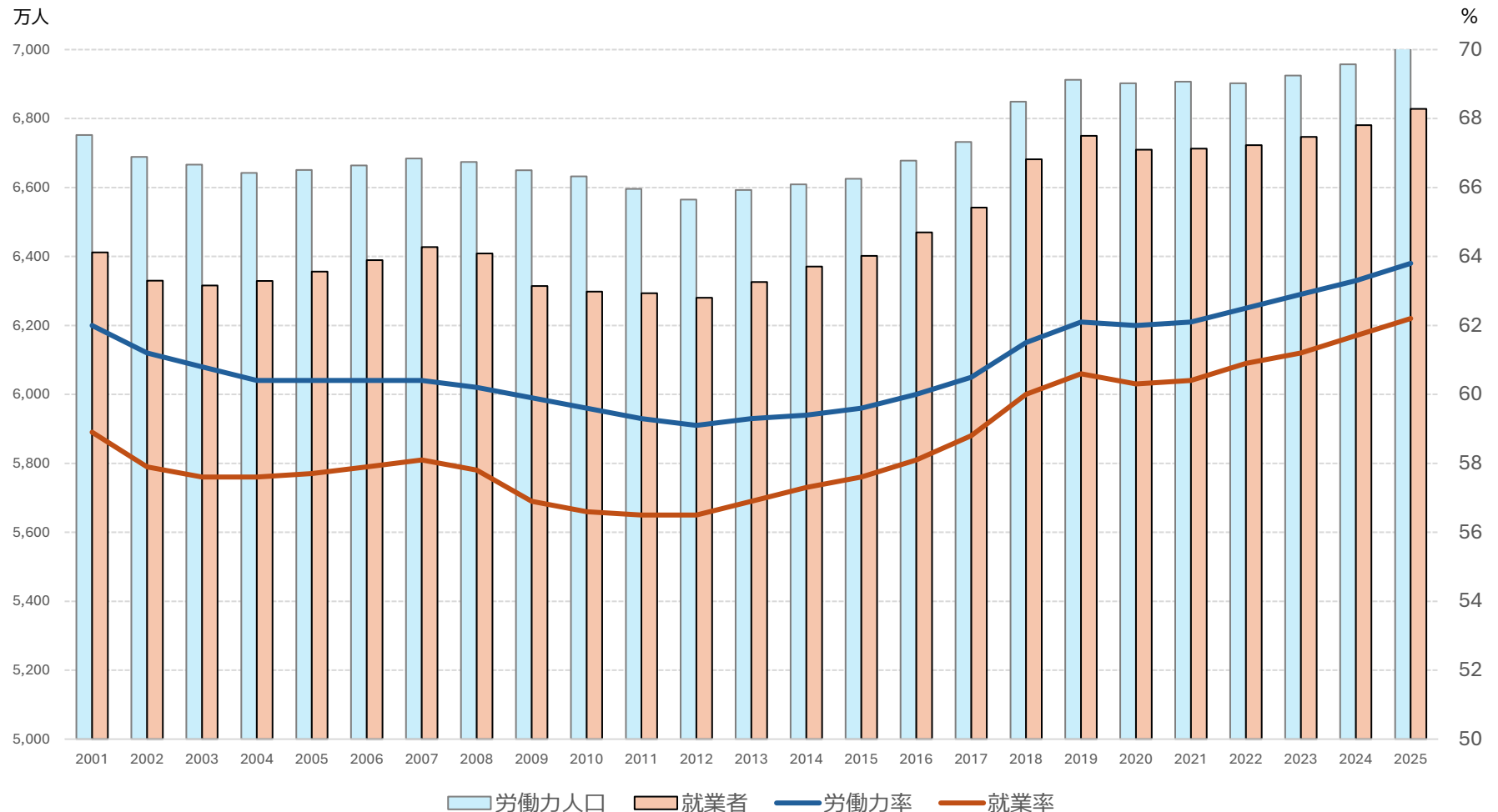
理想の数の子どもを持たない理由(第17回出生動向基本調査(2025年))

夫婦が理想の数の子どもを持たない理由は、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」(52.9%)が最も多く、次いで、「高年齢で生むのはいやだから」(35.0%)、「これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから」(27.8%)、「ほしいけれどできないから」(24.2%)の順となっている。



労働力人口・就業者数等の推移

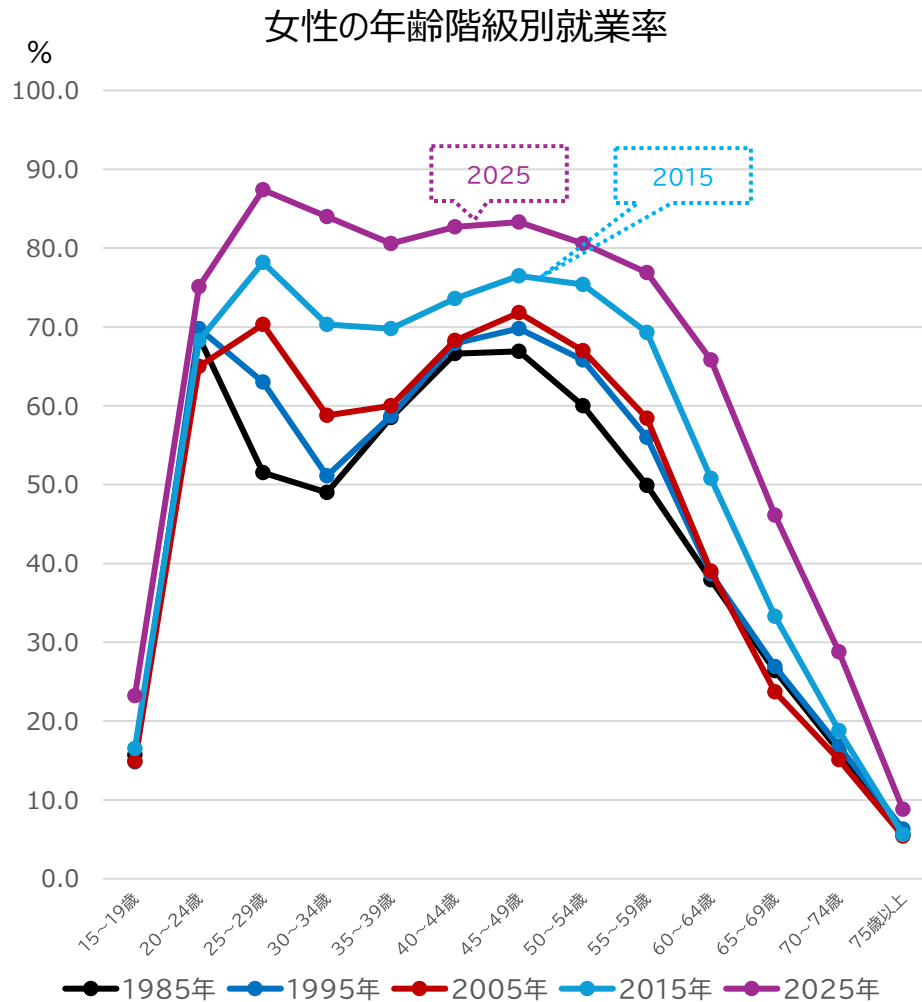
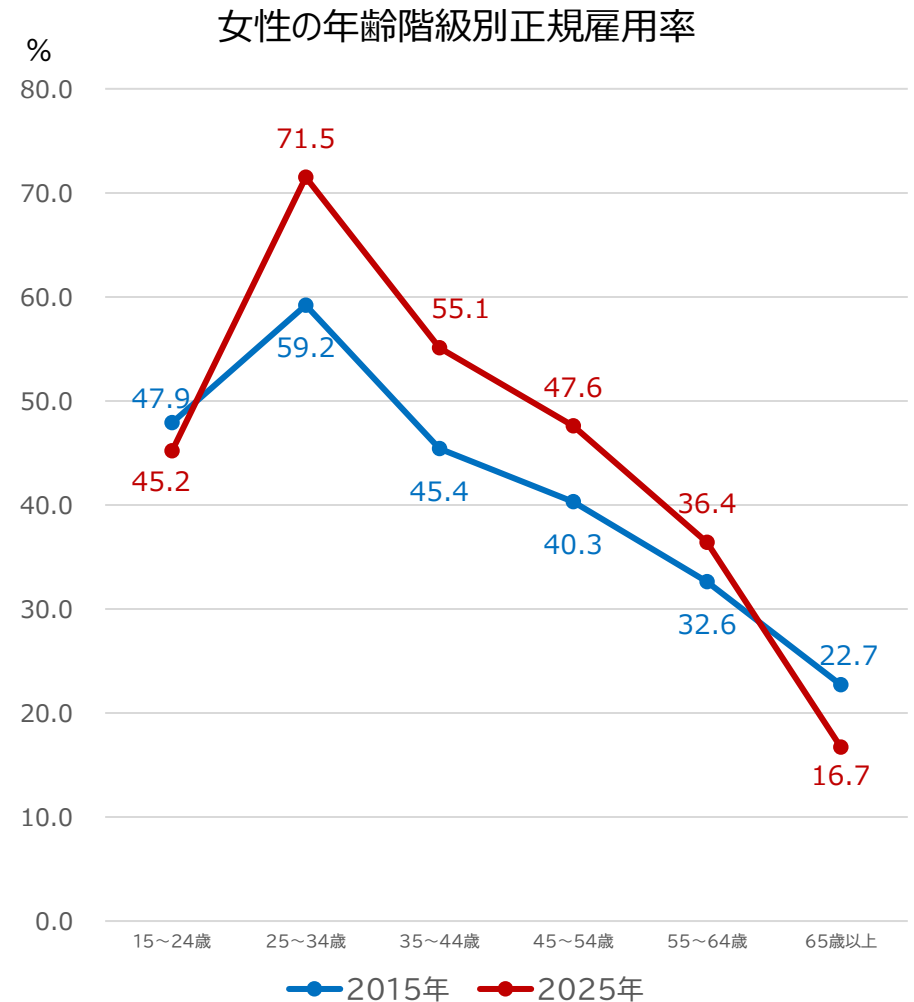
- 生産年齢人口の減少に伴い、2010年代初頭にかけて、労働力人口・就業者数は減少傾向にあった。
- その後、人口減少下でありながらも、女性や高齢者の労働参加向上等から、労働力人口・就業者数は増加傾向にあり、2025年には、労働力人口(7,004万人)・就業者数(6,828万人)ともに、過去最高となった。



出典:労働力調査(総務省)

M字カーブ・L字カーブの推移

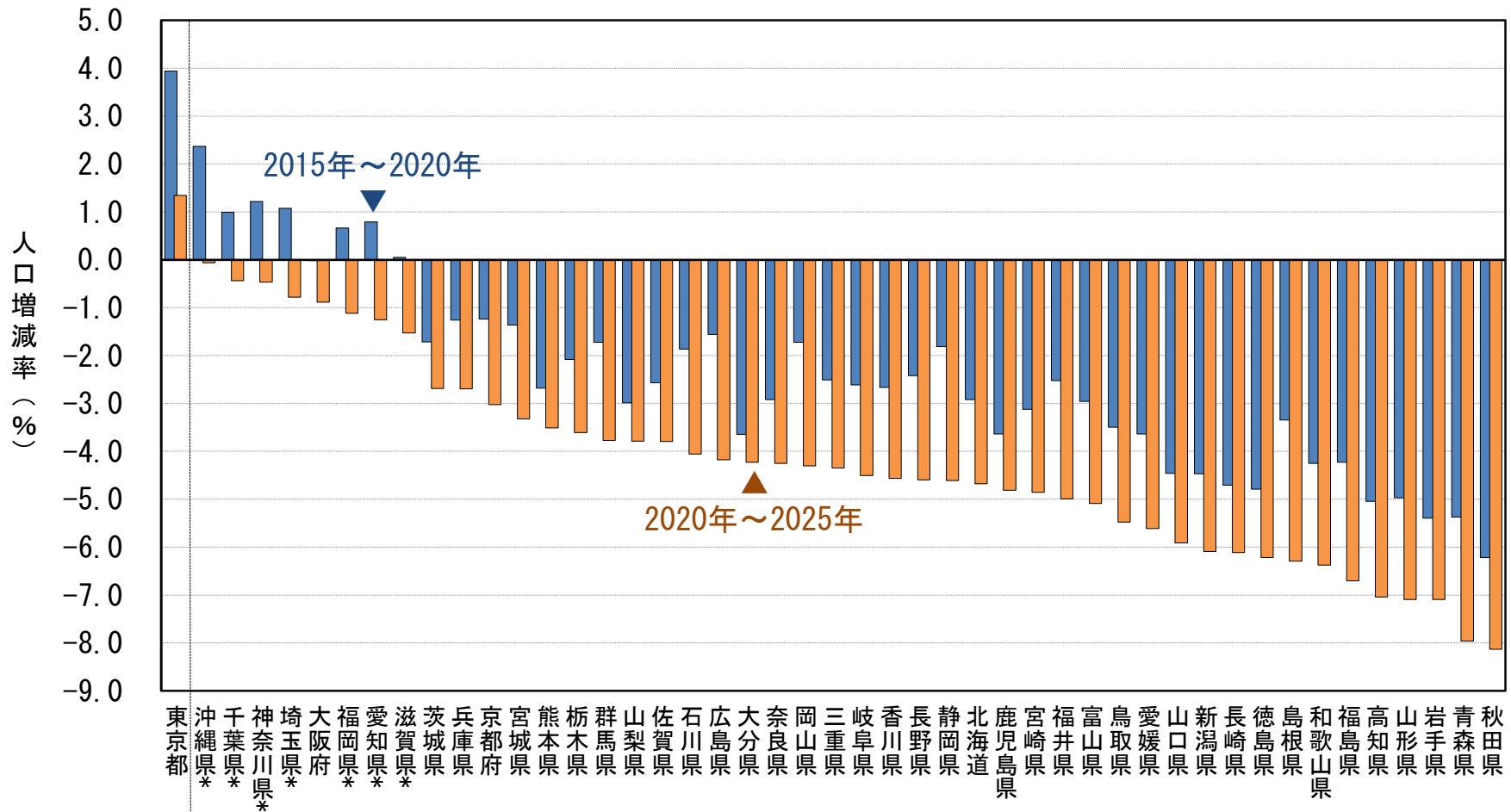
- 女性の年齢階級別就業率は、25～39歳の落込みがなくなってきており、いわゆるM字カーブは解消に向かっている。
- 女性の年齢階級別正規雇用率は、25～34歳でピークを迎えた後、35～44歳の落ち込みは依然として残っており、L字カーブは依然として解消されていない。



都道府県の人口（人口増減率、令和7年国勢調査 人口等基本集計結果）

- 東京都を除く46道府県で人口減少
- 2015年～2020年の増加から、2020年～2025年に減少へ転じた都道府県は7県（下図*印）

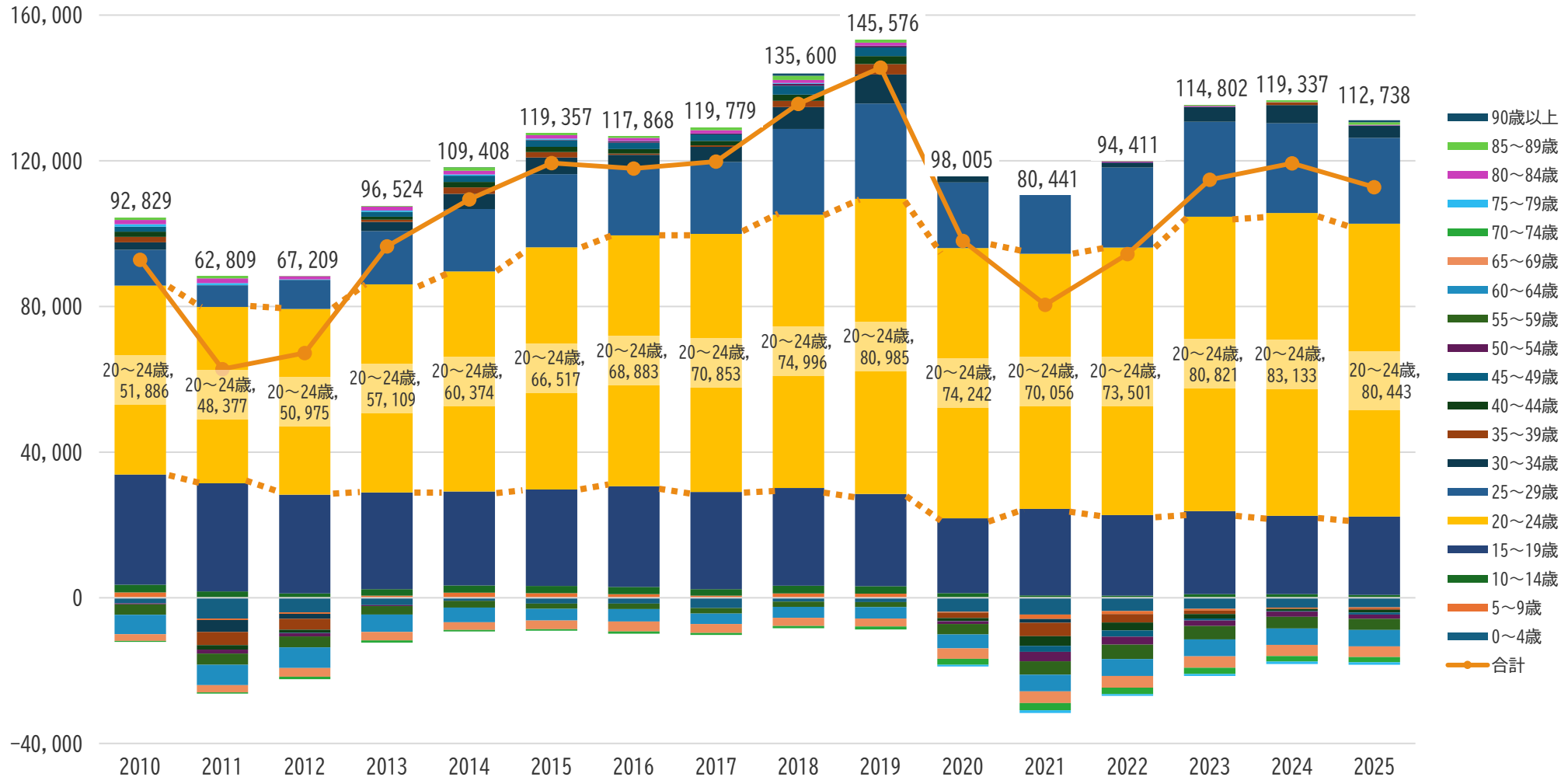
図 都道府県別人口増減率（2015年～2020年、2020年～2025年）



地方と東京圏との転入・転出

- 地方と東京圏との関係では、地方からの転出超過数は11.3万人（2025年）。
- 特に20～24歳の若年層の転出超過が少子化の状況下においても顕著。

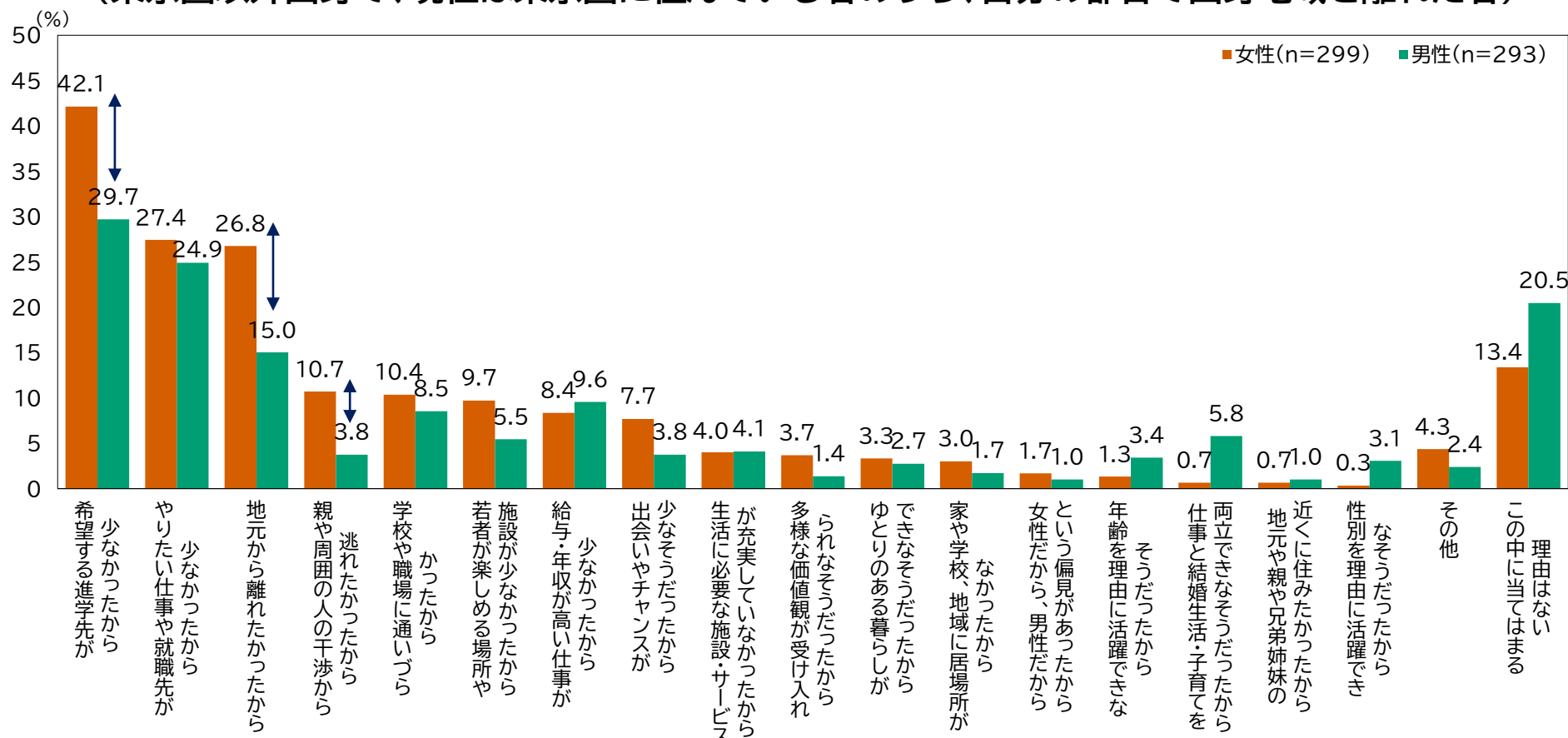
地方から東京圏（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）への転入超過数の推移



若い世代の視点から見た地域への意識（出身地域を離れる理由）

- ・東京圏以外出身で、現在は東京圏に住んでいる者について、出身地域を離れた理由をみると、男女ともに「希望する進学先が少なかった」「やりたい仕事や就職先が少なかった」「地元から離れたかった」が高い。
- ・女性は、男性に比べて、「希望する進学先が少なかった」「地元から離れたかった」「親や周囲の人の干渉から逃れたかった」が高い。

特－27図 出身地域を離れた理由(男女別)
(東京圏以外出身で、現在は東京圏に住んでいる者のうち、自分の都合で出身地域を離れた者)



(備考) 1. 「令和6年度地域における女性活躍・男女共同参画に関する調査」(令和6年度内閣府委託調査)より作成。回答者は18～39歳の男女。

2. 自分の都合(進学や就職など)で、中学校卒業時点に住んでいた地域から転居し(離れ)たと回答した者に対し、「あなたが、自分の都合で、中学校卒業時点に住んでいた地域から転居した(離れた)理由を教えてください。(いくつでも)」と質問。

3. 東京圏は、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県。

東京圏以外出身で、現在は東京圏に住んでいる者…中学校卒業時点では東京圏以外に居住しており、現在は東京圏に居住している者。

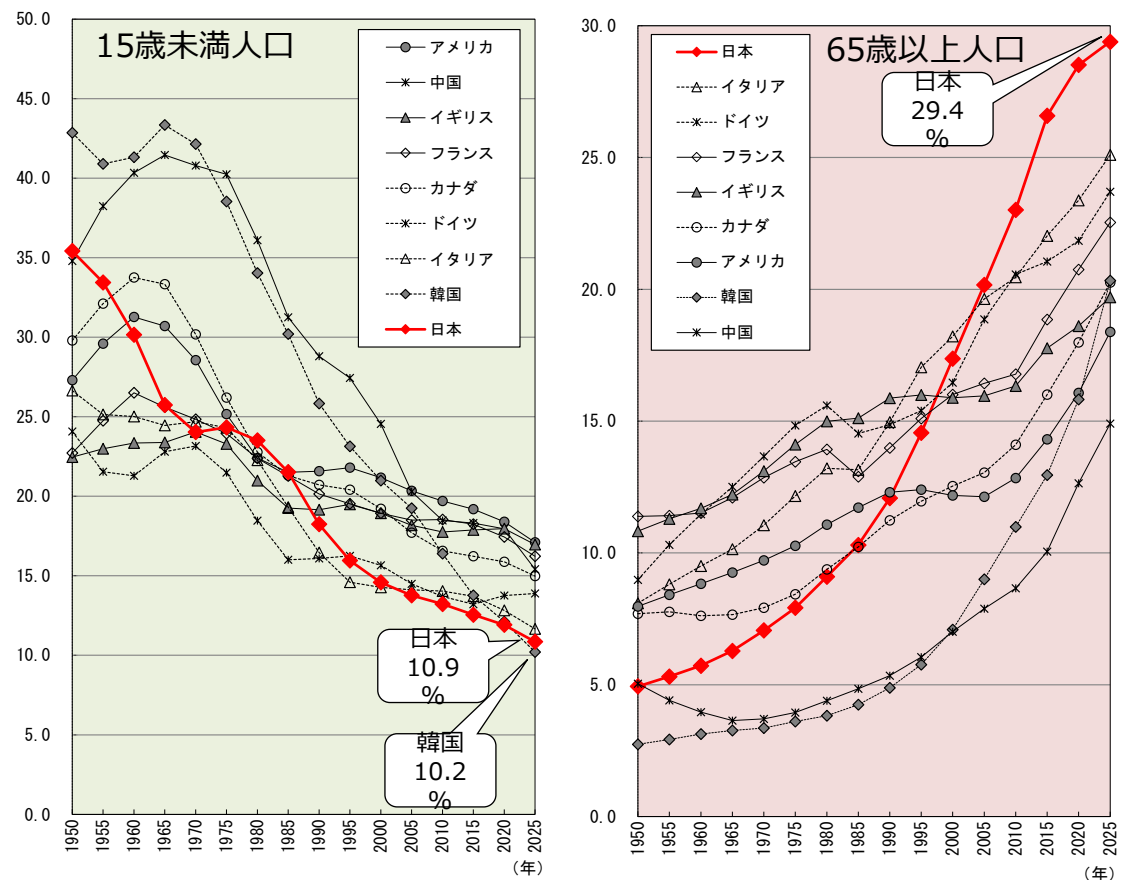
世界各国の人口（令和7年国勢調査 人口等基本集計結果）

- 我が国の世界人口に占める割合は1.5%で、世界で12番目の大きさ
- 人口上位20か国の中で、人口減少率が最も高いのは日本
- 日本の15歳未満人口の割合は諸外国（G7、中国及び韓国）の中で2番目に低い、65歳以上人口の割合は最も高い

表 世界各国の人口及び人口増減率－上位20か国

順位	国名	人口 (百万人)		世界人口 に占める 割合(%)	人口 増減率 (%)
		2020年	2025年		2020年 ～2025年
	世界	7,887	8,232	100.0	4.4
1	インド	1,403	1,464	17.8	4.4
2	中国	1,426	1,416	17.2	-0.7
3	アメリカ	339	347	4.2	2.3
4	インドネシア	275	286	3.5	4.0
5	パキスタン	235	255	3.1	8.6
6	ナイジェリア	214	238	2.9	11.0
7	ブラジル	209	213	2.6	2.0
8	バングラデシュ	166	176	2.1	5.6
9	ロシア	146	144	1.7	-1.6
10	エチオピア	119	135	1.6	13.9
11	メキシコ	127	132	1.6	4.1
12	日本	126	123	1.5	-2.5
13	エジプト	109	118	1.4	8.3
14	フィリピン	112	117	1.4	4.2
15	コンゴ民主共和国	96	113	1.4	17.5
16	ベトナム	98	102	1.2	3.6
17	イラン	88	92	1.1	5.4
18	トルコ	86	88	1.1	1.9
19	ドイツ	84	84	1.0	0.5
20	タイ	72	72	0.9	-0.0

図 年齢別人口の割合の推移（％）－諸外国との比較

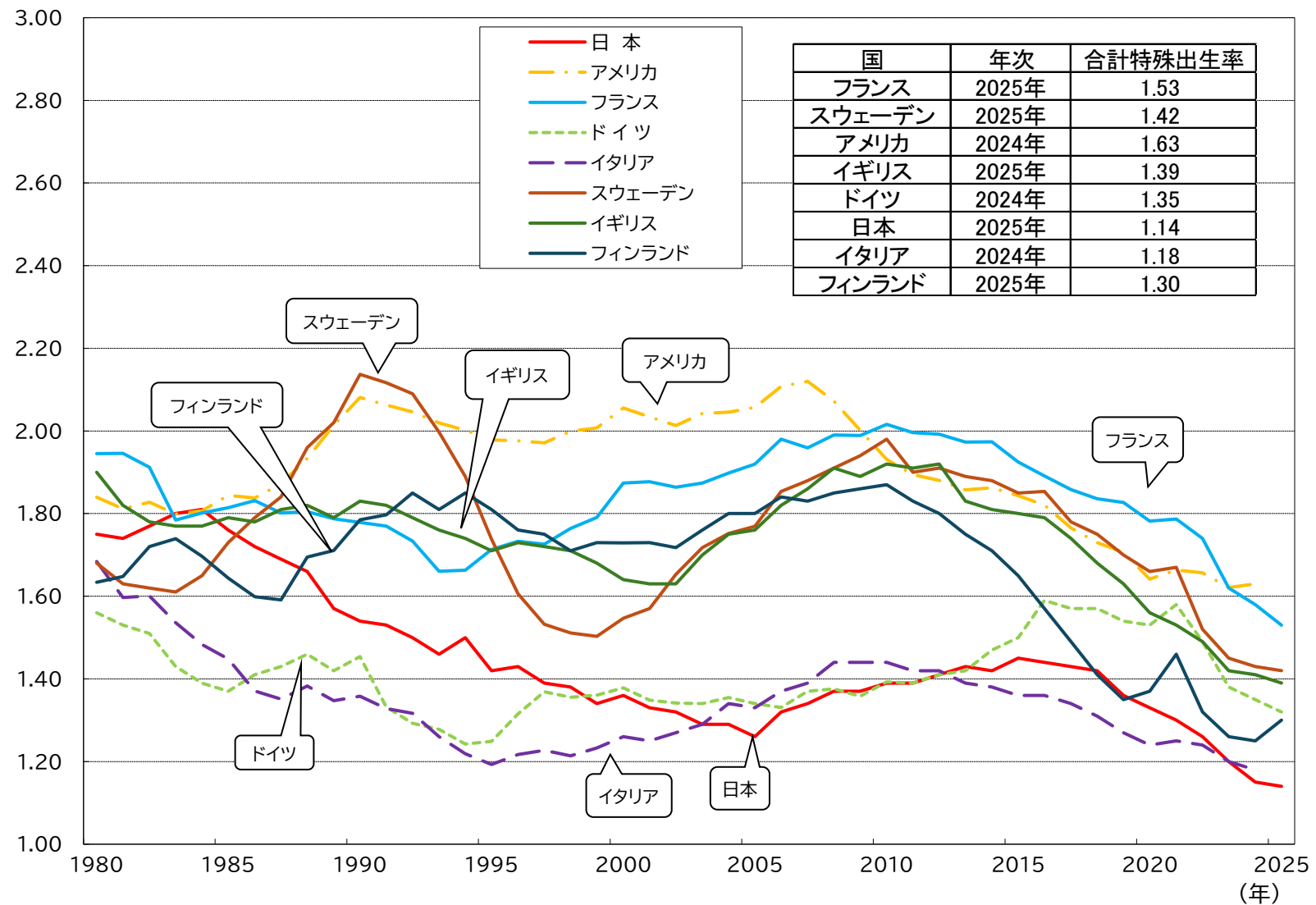


注）世界及び各国の数値は、United Nations, “The 2024 Revision of World Population Prospects”（2020年以前は年央推計値(Estimate)、2025年は年央中位推計値(Projection)）による。

順位は2025年の人口による

出典：令和7年国勢調査（総務省） 人口等基本集計結果

我が国と諸外国の合計特殊出生率の推移

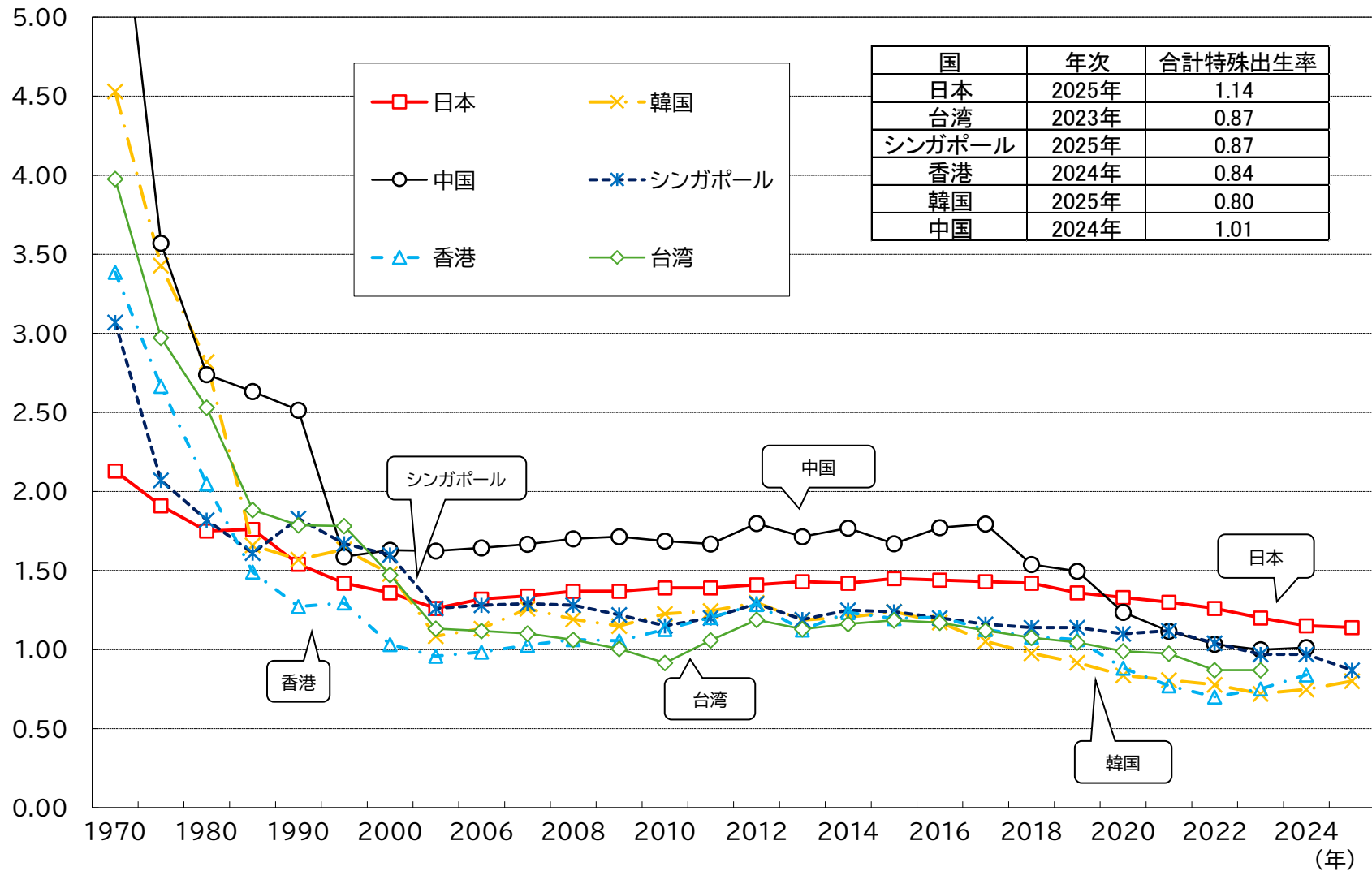


(出典)日本の数値は厚生労働省「人口動態統計」を基に作成。その他諸外国の数値は、1959 年までUnited Nations「Demographic Yearbook」等、1960～2024年はOECD「OECD Family Database」等、2025年は各国統計を基に作成。

(注1)2023～2025年のフランス、2025年のイギリス・韓国の数値は暫定値。

(注2)フランスは欧州にあるフランスの数値、2022年～2025年のイギリスはイングランド・ウェールズの数値。

我が国と諸外国の合計特殊出生率の推移(アジア)



(出典)日本の数値は厚生労働省「人口動態統計」を基に作成。台湾以外の諸外国の数値は2024年まで世界銀行等、2025年は各国統計を基に作成。

台湾は「Our World in Data」を基に作成。

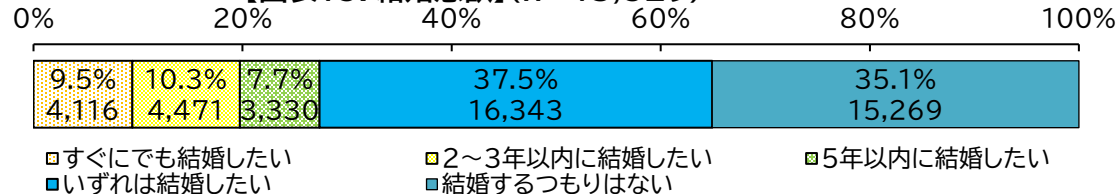
(注1)2025年の韓国の数値は暫定値となっている。

若者10万人の総合調査(ウェブアンケート調査・途中経過)

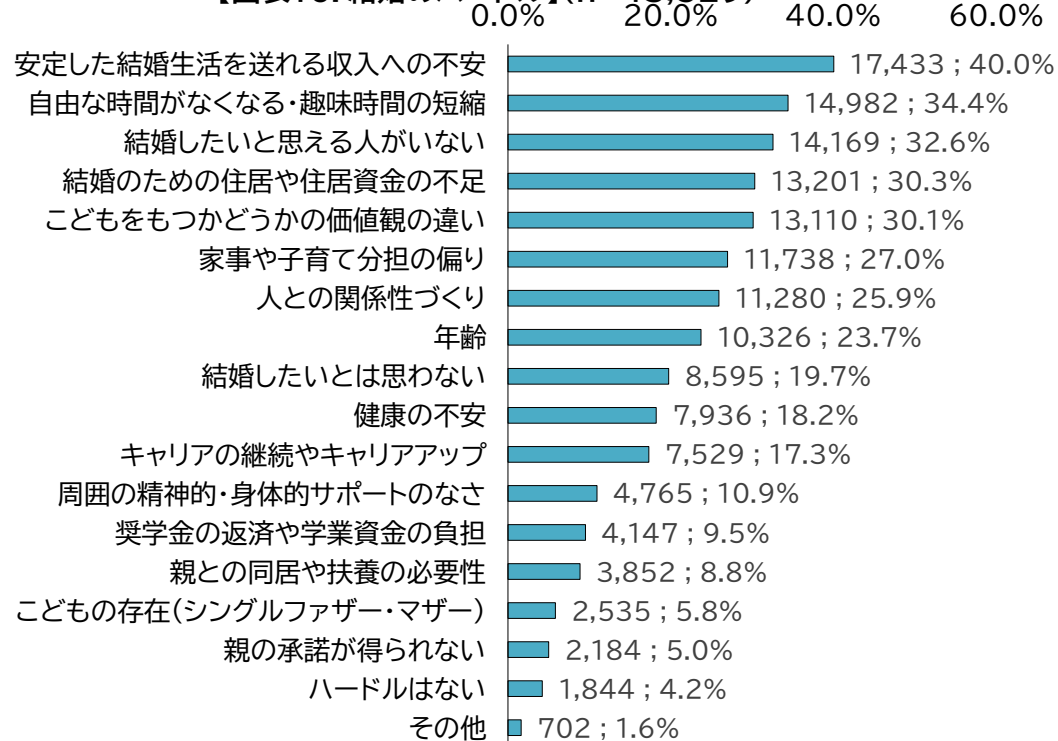
結婚

- 「すぐにでも結婚したい」が9.5%、「2～3年以内に結婚したい」が10.3%、「5年以内に結婚したい」が7.7%となった(図表15)。
- 結婚のハードルは「経済的不安」、「自由時間減少」、「いい人との出会いがない」が上位にあがっている(図表16)。
- 結婚より優先されるものは「余暇・趣味」が半数越え(図表17)。

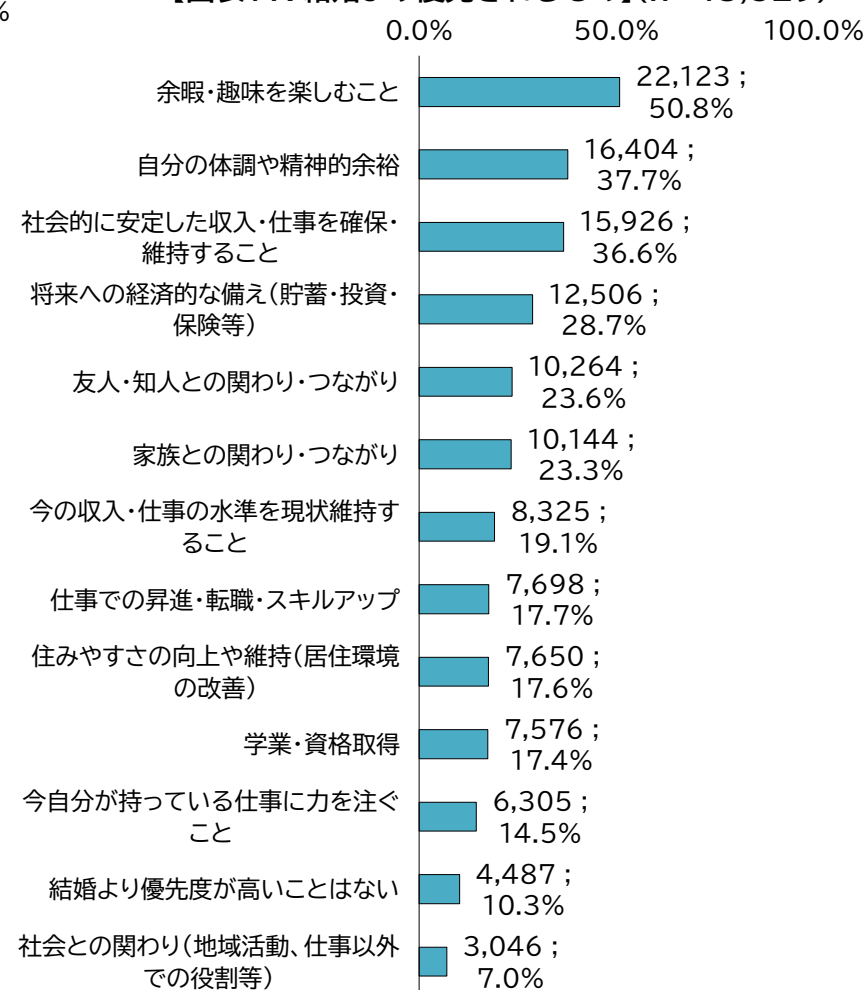
【図表15. 結婚意欲】(n=43,529)



【図表16. 結婚のハードル】(n=43,529)



【図表17. 結婚より優先されるもの】(n=43,529)



(注1)未婚者を対象として集計。離死別を含まない。

(注2)結婚のハードルは、「あなたが今後結婚するとしたら、どのようなことが結婚のハードルになると思いますか。以下の項目のうち、あてはまるものをすべてお選びください。」という設問。

(注)「あなた自身の今の生活において、結婚よりも優先度が高いことはどれですか。あてはまるものをすべて選んでください。」という設問。

若者10万人の総合調査(ウェブアンケート調査・途中経過)

結婚(詳細分析)

- 「結婚のハードル」として女性は20代前半までは「家事や子育て分担の偏り」が高いがそれ以降の年齢階級では低くなっている一方で、年齢階級が高いほど「結婚したいと思える人がいない」の割合が高い傾向を示している(図表18)。
- 「結婚より優先されるもの」は「余暇・趣味」は男女問わずどの年代でも高い水準となっている(図表19)。

【図表18. 男女・年齢階級別 結婚のハードル】(n=42,346)

性別	年齢階級別	集計対象者数	子どもをもつかどうかの価値観の違い	家事や子育て分担の偏り	キャリアの継続やキャリアアップ	結婚したいと思える人がいない	自由な時間がなくなる・趣味時間の短縮	安定した結婚生活を送れる収入への不安	結婚のための住居や住居資金の不足	親の承諾が得られない	親との同居や扶養の必要性	奨学金の返済や学業資金の負担	周囲の精神的・身体的サポートのなさ	子どもの存在(シングルファザー・マザー)	年齢	健康の不安	人との関係性づくり	その他	ハードルはない	結婚したいとは思わない
男性	15-19歳	2,141	34.1%	31.8%	15.1%	24.4%	33.6%	42.9%	32.2%	5.6%	7.4%	14.6%	11.7%	7.8%	14.6%	15.1%	27.4%	1.3%	5.5%	14.6%
男性	20-24歳	2,090	30.6%	23.6%	18.1%	26.7%	34.1%	39.9%	31.6%	5.7%	8.1%	13.4%	10.5%	6.7%	14.9%	14.4%	24.0%	1.8%	5.4%	15.4%
男性	25-29歳	3,071	24.7%	18.7%	16.4%	26.8%	33.5%	37.6%	30.5%	5.5%	7.8%	10.7%	10.1%	5.4%	18.1%	15.1%	22.9%	2.1%	6.5%	20.8%
男性	30-34歳	4,241	24.1%	18.0%	13.8%	29.3%	32.9%	40.5%	30.9%	5.4%	9.1%	9.1%	10.3%	5.3%	25.8%	17.7%	25.0%	1.5%	5.2%	22.8%
男性	35-39歳	5,054	19.9%	13.4%	9.5%	28.9%	30.0%	37.4%	28.7%	3.4%	10.0%	6.2%	8.3%	4.1%	34.7%	21.2%	25.3%	1.7%	4.1%	26.7%
女性	15-19歳	5,783	39.1%	42.5%	22.2%	35.5%	37.7%	44.0%	31.2%	5.2%	6.3%	12.8%	13.1%	8.1%	15.1%	13.6%	26.4%	1.4%	3.2%	12.4%
女性	20-24歳	5,325	35.0%	34.0%	26.1%	32.6%	34.2%	43.6%	33.2%	6.1%	7.1%	12.0%	11.9%	5.8%	13.5%	15.1%	24.1%	1.6%	3.6%	14.4%
女性	25-29歳	5,584	31.5%	29.8%	20.8%	33.6%	36.3%	42.1%	31.9%	4.8%	8.4%	9.6%	11.1%	5.6%	21.5%	18.0%	24.5%	1.3%	4.7%	16.4%
女性	30-34歳	4,528	33.0%	28.3%	16.3%	38.6%	37.7%	39.2%	29.1%	4.9%	10.5%	7.2%	11.2%	5.3%	33.4%	22.0%	29.4%	1.5%	3.7%	20.8%
女性	35-39歳	4,529	28.8%	24.2%	12.3%	41.0%	35.2%	35.5%	26.7%	4.0%	13.5%	3.9%	10.3%	5.0%	39.8%	27.5%	30.7%	1.6%	2.8%	26.1%

(注)「あなたが今後結婚するとしたら、どのようなことが結婚のハードルになると思いますか。以下の項目のうち、あてはまるものをすべてお選びください。」という設問。

【図表19. 男女・年齢階級別 結婚より優先されるもの】(n=42,346)

性別	年齢階級別	集計対象者数	仕事での昇進・転職・スキルアップ	社会的に安定した収入・仕事を確保・維持すること	今自分が持っている仕事に力を注ぐこと	今の収入・仕事の水準を現状維持すること	学業・資格取得	余暇・趣味を楽しむこと	住みやすさの向上や維持(居住環境の改善)	将来への経済的な備え(貯蓄・投資・保険等)	家族との関わり・つながり	友人・知人との関わり・つながり	社会との関わり(地域活動、仕事以外での役割等)	自分の体調や精神的余裕	結婚より優先度が高いことはない
男性	15-19歳	2,141	20.5%	35.0%	13.5%	15.1%	39.5%	52.8%	16.1%	24.3%	27.1%	35.4%	10.2%	30.1%	7.8%
男性	20-24歳	2,090	22.4%	40.3%	17.5%	19.4%	22.8%	49.0%	16.6%	28.3%	20.2%	23.7%	9.0%	29.9%	8.4%
男性	25-29歳	3,071	20.6%	38.3%	15.3%	19.1%	12.6%	45.2%	15.8%	28.9%	17.1%	17.8%	7.3%	30.8%	12.6%
男性	30-34歳	4,241	19.6%	38.0%	15.4%	22.4%	10.1%	48.3%	17.9%	30.8%	16.1%	15.0%	6.7%	35.3%	11.8%
男性	35-39歳	5,054	16.7%	36.0%	14.6%	21.3%	8.6%	47.0%	17.5%	30.6%	14.8%	12.8%	6.0%	38.9%	12.8%
女性	15-19歳	5,783	18.5%	35.4%	15.1%	13.5%	41.2%	57.7%	14.2%	24.3%	34.1%	42.1%	9.0%	36.1%	4.3%
女性	20-24歳	5,325	19.7%	40.5%	15.2%	17.1%	19.7%	50.3%	16.5%	28.2%	28.2%	27.9%	7.0%	36.2%	8.9%
女性	25-29歳	5,584	16.1%	34.8%	13.6%	20.6%	10.7%	50.0%	17.6%	28.1%	22.8%	22.2%	5.6%	34.7%	11.6%
女性	30-34歳	4,528	14.9%	35.0%	12.8%	21.2%	8.3%	53.5%	20.1%	29.8%	23.5%	20.4%	5.7%	44.2%	10.8%
女性	35-39歳	4,529	13.4%	35.9%	13.4%	22.1%	7.9%	52.2%	22.3%	33.2%	25.2%	17.9%	5.7%	50.1%	11.2%

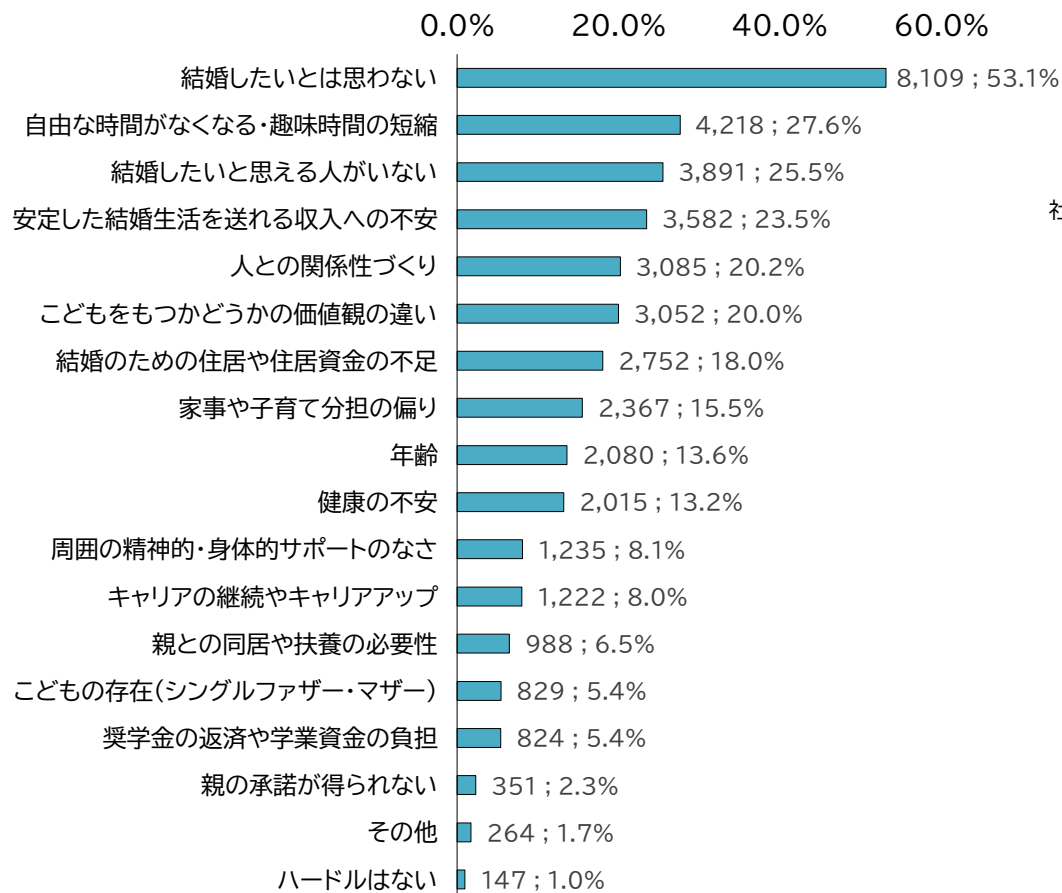
(注)「あなた自身の今の生活において、結婚よりも優先度が高いことはどれですか。あてはまるものをすべて選んでください。」という設問。

若者10万人の総合調査(ウェブアンケート調査・途中経過)

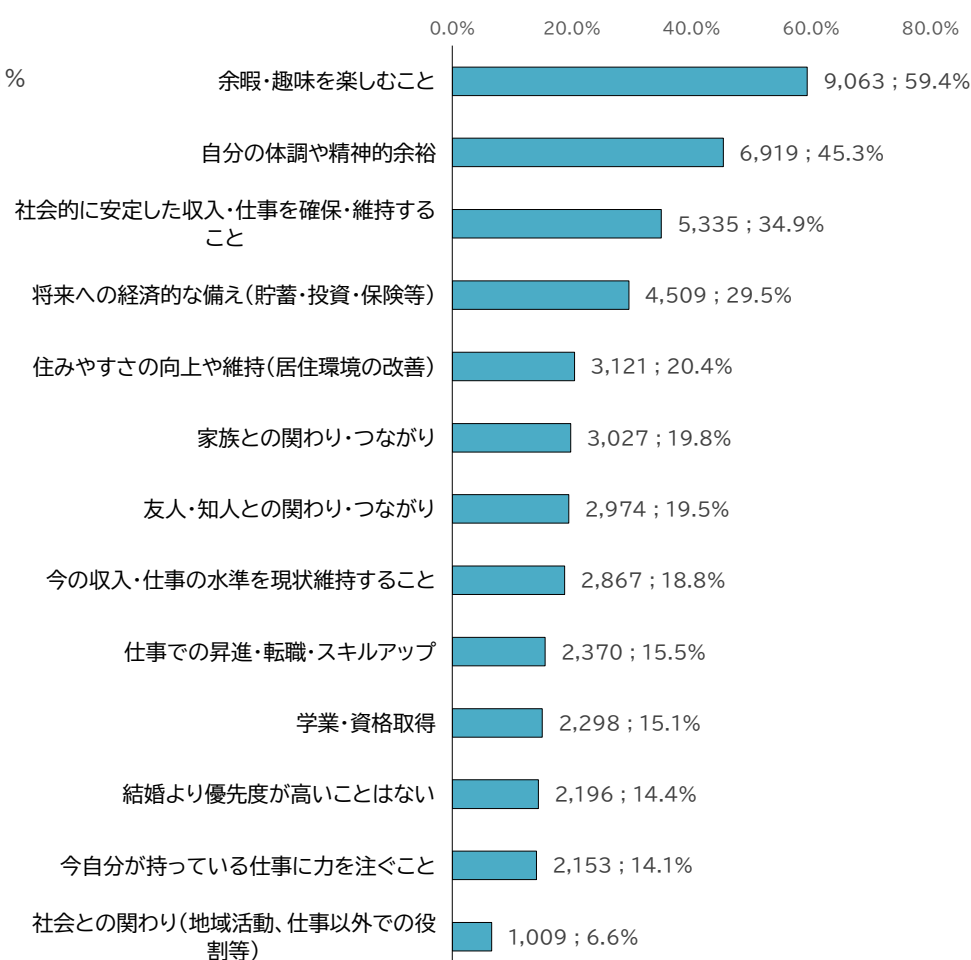
結婚(詳細分析)

- 「結婚するつもりはない」と回答した者に限定して集計。
- 「結婚するつもりはない」と回答した者であっても、「結婚したいとは思わない」と回答したのは約5割にとどまる(図表20)。
- 結婚より優先されるものは「余暇・趣味」が約6割となっており、全体の傾向と概ね変わらない(図表21)。

【図表20. 結婚のハードル】(n=15,269)



【図表21. 結婚より優先されるもの】(n=15,269)



(注)「あなたが今後結婚するとしたら、どのようなことが結婚のハードルになると思いますか。以下の項目のうち、あてはまるものをすべてお選びください。」という設問。

(注)「あなた自身の今の生活において、結婚よりも優先度が高いことはどれですか。あてはまるものをすべて選んでください。」という設問。